報たつおか飯

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報部
印刷所
信州印刷株式会社
松本市巾上電②5686

グループ活動に参加し豊かな人生を

公民館事業決まる

○……四月以来、各委員会、委員長会で立案された四十八年度事業計画……○
○……は、五月に開催された企画委員会で最終決定されました。……○
○……今年の活動の特徴は、①各委員会は新しい計画に積極的に取組ん……○
○……でいる。②グループ活動がさらに活発となり、公民館がより身近と……○
○……なった。③竜丘地区自治協議会と公民館のパイプが出来た。④独立……○
○……公民館の機運がさらに高まったことが上げられる。……○

各委員会の年間計画は次の通り

※企画委員会
一、明るく正しい選挙学習会
一、詩吟グループ育成（年間）
一、成人式（八月）
一、敬老会（十月）
一、二十年前の竜丘村の記録映画の再生、公開
一、新春放談会（一月）

※文化委員会
一、写真、スライドによる各種資料の保存とフイルムの管理
一、民俗資料の整理、管理
一、古老の語る竜丘
一、右三項目に関係あるグループの育成、援助
一、ペン習字教室の運営
一、各分館主催による村誌学習会
一、講演会
一、企画委員会と協力し、記録映画の複製

※体育委員会
一、第十三回体育祭（五月）
一、第二回早起野球大会（任意チーム）（七月）
一、常会対抗野球大会（八月）
一、統一・分館盆おどり（八月）
統一盆おどりは、青年会と共催し十六日学校々庭で行なう
一、市民運動会（十一月）
一、分館対抗卓球大会（一月）
一、サークル運営、育成

※広報委員会
一、館報の発行（年四回）
一、自治協と公民館の窓口となる
一、成人者、青年との話合い
一、館報発行の技術修得

例年行なわれて来た文化祭については、展示部門を縮小して芸能祭にしてはどうか、と言う意見もあり文化委員会で研究中です。

なお、今年あらたに発足したサークルは盆栽協会竜丘支部、剣道クラブ、竜丘野球同好会、城腔野球同好会、三六・六野球チーム、ギュウ・チューチームの六グループです。各グループでは、皆さんの積極的参加を呼びかけています

公民館は私達皆のもの、行事、グループ活動には積極的に参加し、豊かな人生を送ろう。

役員紹介

◎委員長　○副委員長

企画委員会
◎木下　一○伊原　清　森　義宏
熊谷よしみ下田すすみ下平宣嗣
熊谷正一　前沢潤一郎　小林晃
伊藤　操　熊谷清美　伊坪恒雄
木下幸男　木下新吉久保田吉郎

文化委員会
◎林　直人○下平一郎　今村　健
久保田秋一伊藤万保　三石幸恵
久保田重一久保田善次　原　先
沢柳義茂　中田日出人　林治人
久保田重治　田中啓一
姘和誠司　小林一男

体育委員会
◎下平　衛○原　功　中島康人
原　耕一　林きく子　河井篤子
下平吾郎　下平辰春　熊谷文伸
下平唯男　下田健男　植松清臣
下平　毅　塩沢竹雄　狩野武人
牧内利郎　塚平英行
園原義美　大野　譲

広報委員会
◎小林寿保○大見新一○杉本勝吉
長沼竜　坂井利光　久保田公夫
熊谷伊久夫牧内保夫　熊谷和美
浜島美博　森義宏　岡村千恵子
下平和子　小林恵子

図書委員会
◎下平芳昭○中島竜彦　下平　広
下平幹雄　原　耕一　中島靖人
伊原勝　山田信男　熊谷伊久夫
熊谷よしみ　関島秋子　林文子
岡村千恵子　原田京子　原順子
下平和子

街をまもって64年

時又夜警班表彰

〝地震、雷、火事、おやじ〟昔から恐ろしいもののひとつに上げられている火事。

竜丘のうちでも一番の住宅密集地で、万一火災が発生した場合、大きな被害を受けるものと憂慮されている時又商店街、この街並みに、毎晩「チリーン、チリーン」と鐘の音を響かせて夜警が廻っている。

このほど、この時又夜警班（班長　伊原春男氏、加盟者は夜警範囲内に在住する約九十名）が永年の自主的な防火、防犯活動が高く評価され、五月二十九日、飯田合同庁舎に於て、飯田地区防犯協会連合会長（飯田市長　松沢太郎）並に飯田警察署長より表彰状が授与された。

なお、同班は昭和二十五年四月に竜丘村長より表彰状を、昭和二十六年一月には下伊那消防協会長より、また昭和三十五年一月には飯田市消防長よりそれぞれ感謝状を受けており、今回の表彰は四回目である。

この時又夜警班は、明治四十二年二月、故伊原吉治さんが近隣の人たちと寄り集まり「夜まわり」として始めたのが最初で、以来現在まで六十四年間にわたり毎晩続けられてきた。

見廻りは旧国道に沿って大井橋から時又駅南のガード下付近まで

青年の主張

米作　どうしたらよいの！

今では麦の作付けもなく田植も水の少ない所は別として蚕が来る前にほとんどが植付けを終えてしまう。そして今では青々と生育をしている。そんなころ今年の米の売渡予約が始まる。

生産調整も順調で目標以上に実施され山の方の労力のかかる小さな湿田の休耕田も目につく。こんなに雑草の種があったのかと思う程で養分を吸っておい繁っているそんな所を見てこれからの米作りはどうなるのだろうかと感する。過剰米対策として、生産調整をし天候不順又三年続きの米価のすえ置昨年はわずか五パーセントほど値上った程度で生産意欲をなくし生産が減り過剰米（古米）も今年秋ごろまでには解消される様聞いているが、又需給の面でも農協の倉庫に在庫が少なくなって来たと聞く。マスコミで伝えられる世界的な食糧不足は今年も続いており、国内にもいち早く天候について警報が出ているが、これは一時的な現象なのかあるいは長期的なものかわからない。

売渡限度数量を決められても売渡しが減っている。これはどこに原因があるのだろうか。農産物は気象条件によって大きく左右されてしまう。過剰米時代に対処し量より質の良いうまい米を作らなければならない。それによって品種を変えその土地に合わないものを無理して作り病気等にかかり減収する。又他の問題として生産意欲がなくなって来ている。インフレ経済の中で現金収入が無ければ生活が出来なくなり外へ収入を求めほとんどが休日農業になってきたため、思う様に管理が出来ない。有機質が入らないため地力の衰えも要因となっていると思う。

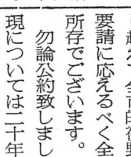
米が不足するのではないかという心配の中で、国が計算している数字が先にのべた様な原因で買入が減ったとしたら、計算がくるってしまい不足を生ずる可能性も考えられる。日本はコメ以外の穀物生産をほとんど放棄しその過半を米国からの輸入に頼っている。しかしそれが自由に出来なくなった場合国民生活にあたえる影響は大きい。米の需給も小麦以下の需給によって大きく左行されると思います。

世界的に食糧危機がさけばれている中で食糧輸入の多いわが国が国内で生産制限をしているのは矛盾していると思います。米価についても算定方式が生産費、所得方式によるようになっているのに、最近の物価、賃金の高騰により稲作生産費はかなり上昇しているのに上がらないのはおかしい。食管赤字がふえたとしても予算よりかなり多い税収の見込まれる中で食管への財政負担は無理ではないと思う。国は選挙のための信念のない政治を行なうのでなく、調査や情報を収集し、私達に知らせてくれるとともに、望みをもてる農業政策をうち立ててもらいたい。これからの社会をになう青年として又農業青年の少ない現実を見、農家の人達と接する中から感じています。

（K・K）

新市議の抱負

四月の市議選で当選した、伊原・伊藤の両市議はその抱負を次のようにのべています。



伊原悦雄氏

八万市民の深いご理解と、地区内はもとより市広い各層各位の暖いご支援を戴き、通算四期目の市議会議員の議席を得る事が出来ましたが今期市議選を顧りみて過去その類例を見ない激戦と比肩して余りにも政策論争が後退して寧ろ個人攻撃を含めた次元の低いもの足りなさを感じ、誠に醜いあと味の悪い選挙戦であったと思われます。

然し今日選良として議席を得た以上は凡ゆる感情を捨て恩讐を乗り越えて全市的視野の中で地区の要請に応えるべく全力を傾倒する所存でございます。

勿論公約致しました政策等の実現については二十年有余の議会経験を生かし乍ら誠意を以って努力致す所存でございます。

伊藤祐春氏

市民生活の基盤である市道や農道の改善は、特に地区民の強い念願である。現在市では昨年発足した道路整備五ケ年計画にそって、舗装や改良を進めているが、地元の要望を充たすには仲々容易でない。その上地区により相当の格差が見受けられる。又同一地域内においても同じことがいえる。

道路改善の順序づけには、いろいろの条件が必要であるが、私は特に格差是正の重要性を強調したい。民主市政の根底を流れる大切な要素は、日陰をつくらない深い配慮である。道路行政についてもこうした考えにたってその推進に努めたい。

尚教育行政等に対する抱負は紙面の都合上割愛する。

随想リレー（95回）

人生に趣味を

上川路　清　水　樹　夫

六月十三日朝空を仰ぎ入梅に入っているのに今日も相変らずの上天気。野菜植木の乾くのを心配しながら水を与えていると、妻が勝手場より「父さんどなたか見えたようですよ」との声で玄関に来て見るとめずらしい方の来訪に何用事だろうと思いながら挨拶をすますと、村の公民館の編集部ですが今度館報に出す随想リレーのバトンをたのみたいとの事、原稿は六月十八日迄に書いてくれとの事、これは大変な事になったと思いながらもお引受けはして見たが筆を取って見ると仲々文句が出てこない。まだ三日ある、あと二日あると思いながらとうとうあと一日と

過去にも焚火の残り火や、家屋からの出火など、夜警中に発見、未然に防ぎ、大事に至らなかった実例もある。

また防犯の面でもその効果を上げ、住民の安眠を守る「真夜中の功労者」としてその存在は欠く事のできないものになっている。

なってしまい、今晩やっと筆を取る気になり今迄経験し、また思った事を書いて見たいと思います。

私は今より十二～三年前、六月二十七日伊那谷をおそったあの悪魔のような三六災に会い、農家の長男と生まれ三十六歳迄農業に励んで来た人生を一変せざるを得なかったわけですが、あの災害後の苦しみ、また転業してよりの苦労の中で何か日一日の中に一時でも心にゆとりの持てる楽しみを持つ事が何よりの再建の道ではないかと考え、自分の身近にある植木の趣味を持つようになったのです。

当時は今日のような盆栽のブームでもなく仕事に歩く先で目に入った山野の種木を持ちかえり自分なり、木の作り方で型作り育て、たのしみにして来ました。良く人様方に随想リレーのバトンを送りまから仕事に出ていて植木の水やりす。手入れのスキがありますな、と言われますが仕事がいくら忙がしくても、また体が疲れていても一寸位の間はあるものです。

此の一寸のひまに自分の好きな事をするという事は仕事に非常にハリが出て来、楽しく仕事が出来るものです。盆栽にかぎらず人それぞれの好きな事趣味があると思います。その越味を生活面に生かして行く事が体の健康にもつながるのではないかと思われます。

また、色々な趣味を通じて（たとえばお年より、御婦人、有名人）今まで見たことも会った事もなかった方々と趣味を通じて人間社会に通じて行ける事が何よりのたのしみであると思っています。

もう少し書こうと考えるのですが頭の中には出つくしたのか出て来るものはあくびばかり、大変に夜もふけて来たようなので、これにて筆をとじさせていただき次の

充実した活用を

駄科　プレハブ集会所完成

最近の住宅建築は、四方壁に囲まれていて、二間合わせて使用するということが困難な造りになって来ている。

このことは、組合の寄り合いなどするには、非常に不便である。

そんな中で、

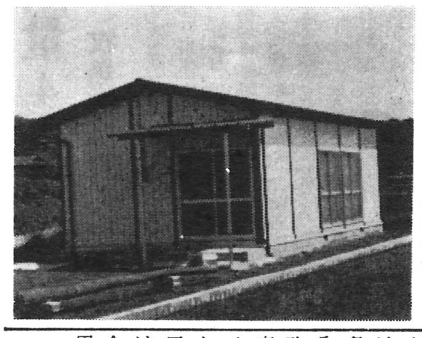
このほど、駄科北平にプレハブの集会所が建てられた。

この建物は、十三番組に属する十九戸が中心となって、一戸当り約五万円を負担し合い建てられたもので、敷地が五十坪・建坪が十三坪で、中は、十畳二間・炊事場が一坪半・土間が一坪・外に便所という造りである。

この建築工事は、四月下旬ごろから、池田鉄工所により着工され内装・特に壁には組合の人たちにより化粧紙が貼られるなど工夫もされ、約二カ月間程でほぼ完成された。

炊事場には、プロパンガスが備え付けられ、湯飲み茶わんも寄贈されるなど、一応簡単な料理を作ることが出来るくらいの道具が揃えられている。

このりっぱな集会所も、完成されてまもないのか、今のところ、あまり使われていないそうですがこれからの組合の寄り合いはもちろんの事、その他、老人クラブや子供達の集会所として、又婦人会の学習会、研究会などにもどんどん利用していかれるそうです。



【完成したプレハブ集会所】

ヤブ蚊

●交通事故による死者ゼロの日が二百日になった、とニュースが伝えている。これは小諸市内での事であるが、死者の出ない事がニュースになるという悲しい現実である。また事故の犠牲者は老人と子供が多いことも悲しいかぎりである。ドライバーに一層の注意を願いたい。●事故を起した運転手は金銭的、精神的に悩みつづけあの時ちょっと注意すべきだった、と後悔している。「あんな運転では事故を起すぞ」と云われる人、なぜ事前の注意が出来ないのだろう●ここに交通安全協会という組織がある。講習会、安全旬間中の街頭指導等を行っているが、その組織の実態はもちろん、運転手自身が会員であるか否かさえ不明確である。●地区安全協会の場合、会長は自治協で任命、役員は各区より区長任命その数二十一名、予算は三万円（四十七年度）は自治協より出ている。自治協では自動車保有者より総額六十万円（四十七年度）集めている。●役員は無報酬で前項の他に道路の点検、道路標示標識、信号機設置等の運動を進めている。交通戦争の前線部隊で本当にご苦労様です。●ところで交通事故を無くすにはどうすればよいか。運転手の自覚、道路の整備、歩行者の注意、子供を見る親の責務等々その手当はいろいろあります。その中には一人で出来る事、地域住民の要求をくみ上げ自治体等に要求すべき事、さらに子供達に繰返し～教えなければならないことなど、ひとつの事故をなくすにも広い視野に立って見る必要があります。●その意味から安全協会の組織には肉付の必要があると思う。先ず役員は運転者はもちろん、歩行者でも老若男女各層代表を加えること。地域ぐるみ交通安全一斉点検、危険個所の改善、応急処置等今迄より早く出来るだろう。会員には自覚をもたせることも大切である。こうすると信号機の設置運動等下からの住民パワーとして盛上り、その実現は早まるだろう。この方が交通安全協会本来の役目を発揮できると思う。

「注意一秒　ケガ一生！」

あなたの健康は……？

睦会の調査より

竜丘地区〝主婦の健康・生活時間調査〟昭和四十七年度がこのほどまとまりました。

この調査は睦会が中心となり、公民館・家庭教育学級とで地区内の睦会員百六十五名を対象にしたアンケートによる調査で、内容は一、共通調査として、年令・出生地・職業・家族構成・結婚前に青年会活動の有無など

二、健康調査として、肩こり・腰痛など症状別・流産・死産の経験

三、生活時間調査では　一日の生活時間・現在関心のあること・毎月の生活費など

合計三十六項目にわたる調査で、報告集は十三頁にわたり主婦の健康と生活を知るには最も貴重な資料です。

このまとめは、県立阿南病院長の宇治正美先生に見ていただき、講演学習会が今後予定されています。

職業別調査では対象者百六十五名中、家事専従四十三名、家事と家業が最も多く八十三名、勤め二十八名、農閑期のみ勤め七名、無回答四名となっています。

健康調査で職業別に調べてみると、◉農業の場合（三十七名）肩こりが一位で三十四名（90％）二位が腰痛で二十六名（70％）歯痛二十四名で（64％）手足のしびれ十八名（48％）五位にめまい十四名（37％）次に不眠・腹はり・息ぎれ・夜多尿の順になっています

一人平均四つ程の症状を持っています。原因は、忙しすぎ、労働時間が長い、腰をまげる仕事、重い物を持つため、運動不足、つかれ、貧血、胃が悪い、急に力仕事をした、あみものなどこまかい仕事、子供が小さいため歯痛を治せないと理由があり、流・死産の経験は二ケ月から六ケ月までにことに三ケ月に多く見られる。

◉農業が主で勤めの場合（三十二名）も順位では、肩こり・腰痛歯痛と変りなく、四位にめまい十三名（40％）五位腹はりとなる。原因では農業とほとんど同じであるが疲労を訴える声が強く、他に神経痛、同じ姿勢のため、はきけ冷え、と理由が増えている。

◉勤めが主で農業もしている場合（三十名）症状は前記の場合とほとんど同じ、原因に寝不足、治療不足、こまかい仕事、交通事故のため、重い物を持った時などの理由が加わってくる。

◉勤めの場合（四十七名）肩こり・腰痛の次に三位にめまい二十名（42％）歯痛・手足のしびれとつづく。原因では腕の使い過ぎ・こんづめ仕事のため・内職のためなどが加わる。

◉商業の場合（十六名）肩こり・腰痛・めまい・歯痛となっており全体として見ると第一位肩こり、第二位腰痛、続いて歯痛めまい・手足のしびれとなって、健康がむしばまれていることが改めて明らかになった。睡眠時間は平均七時間五十二分、最少五時間三十分という結果です。

身近になった自治協

待たれる「自治協だより」

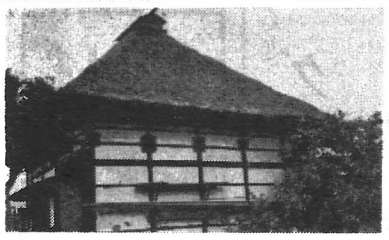
竜丘自治協議会の新年度第一回の会合が五月十八日午後一時より竜丘支所に於て開催されました。今年度新しく改選組織構成された自治協議会員（新市議二人含）、全員が出席して、竜丘地区に直面する諸問題につき協議がなされました。又この席に初めて広報委員の傍聴が許され公開の場となりましたが、これには以前から自治会の民主化を要望する声の高まりと共に、地区民の声、要求を自治会へ　又自治会の今年度の方針、事業内容等を地区民へ知らせるための役割りを公民館（館報）が果す事もあって会議の内容を広報委員が傍聴しました。

まず自治会から、あらかじめ竜丘地区に解決を迫られている重要問題について関係者から主旨説明経過報告、現状について報告があり、それについて討議がなされました。当日審議された議題は次の通りです。一、桐林の学校下市道一号線改良促進について　二、国道バイパス信号機設置陳情による現地調査について　三、南原橋掛替工事について　四、竜丘地区農業構造改善について　五、桐林ビルダ開発について　六、竜峡地区消防分署について　七　その他（道路舗装等）

何れも、現状にあっては流動的な問題ばかりで、決定を見る事はできませんでしたが、詳細については、今年度から発行される「自治協だより」に期待しましょう。

尚、六月十一日開催された会議に於いて、市会議員は、正式メンバーからはずし、参与と云う資格で参加することになりました。

民俗資料の心



近年家の耐年からか生活の変化からか知るよしもないが、私達の廻りには新しい家が次々と建てられてゆく。恰好と言い、互の色と言い外観はカラフルそのものだが……そんな中にあって、ひとつのひなびた建物が装いを新らたにしている。駄科の薬師堂（通称お薬師さまと呼ばれる）である。バイパスから少し入った所にある。毛賀の方から車を走らせて来ると目の前木立の合間に異風な、そして懐しげな建物を目にする。近頃ではあまり見る事の出来ない茅葺のしかも急角度の屋根に目を置く、それが薬師堂である。

只今屋根の葺替工事がすすめられている。残念な事に茅ではない今時茅など無いし、茅葺職人もいない。しかしトタン板の葺替ではあるが、駄科区民の協力によって存置保存されるに至った事は喜ばしい事である。新しさを求める反面、古い物に心ひかれるのは誰しも同じ事、近頃失なわれつつある古き良き物を大事にしていこう、残していこう……と私達の遠い祖先が残した遺産を守ろうとする素朴な心の興りでもある。

今日では一つの集会場にすぎないが、そこには私達の知らない歴史が刻みこまれている。

薬師堂は「阿羅多薬師堂」「阿羅多堂」とも言われ、天文十一年（一九四二）小笠原貞基が領内に十二薬師を祀った中の一堂宇と言い伝えられ堂は駄科村で運営されて来た。今日の薬師堂は棟札によれば、文政十一年（一八二八）四月十五日とある。今から百四十五年前の建立と思われる。また屋根の葺きかえは、明治二十六年四月明治四十一年三月、大正十年四月と記されている。

昔のお医者さま

駄科　お薬師堂

薬師如来は十三仏の一つと言われ主として年忌追善の供養として鎌倉、室町にかけて興起したと言われる人間の体内に入った悪疫（悪病、はやり病）の療養を祈願し病患を救い災厄を除く仏とされ、衆生を迷いの苦しみから救ってくれる如来とされた。いつの頃からか、眼病の薬師さまにたとえられる様になり、堂には穴のあいた石が供えられている。願望成就のためには神仏にすがる他しかたがなかったのであろう。いつの間にか

これに交替で当番にあたった。お開帳は明治三十年四月九日より、二十日まで、大正八年四月六日より十二日まで、昭和五年三月（日は不明）と記されている。その後は戦前、戦後の混乱期のためだろうか？それにまつわる記録はない

信仰から興きた薬師堂ではあるが今日では下平の会合や老人の集いの場所として役割りが時代と共に移り変って来ている。変らないのは薬師堂そのものであり、それを後世に残そうとする人々の心でもある。限りなく変貌する世の中人の心も移り気なこの世に人間が人間らしく生きたいこの時代に、「心の安らぎ」なるものを薬師堂に見た。老人が草むらに腰をどっかり下ろしながら、屋根の葺きかえを感慨深そうに見上げていた。

杉本勝吉　記

資料蒐集に当り北沢小太郎さんのご協力を戴きました。

生活道路の改良を

寺下農道完成

駄科の神社横から、関島増雄さん宅裏までの道路、寺下農道が完成しました。今迄は、巾員も二メートル位で、耕うん機同志が、すれ違いも出来ない程のせまい道でしたが、四十六年、四十七年度の二年間に渡り、総延長六二〇メートル、工事費約七〇〇万円で、巾員四メートルの立派な、農道が出来ました。これで国道に出るにも農協へ行くにも、大変良くなりましたが、新井原や、臼井原の畑に行くのには、中溝井線が改良されてないので、農道としての役割が果されないのが残念です。この先も早く出来る事を望みたい。

駄科の大井線といえば、悪い道路という、イメージが抜けないと思います。どういう訳か昔から良くありません。一時は舗装され良くなったかにみえますが、今では舗装も痛み路肩も崩れかけて、至る所に、路肩注意の標識が目につきます。利用度の高いこの道は朝の通勤時には、大変混雑し、又狭い道路へ、十トン。十一トンもある大型ダンプが、行き来するのでは道路もたまったものでは、ありません。人は小さくなって歩く始末です。先月も一件の交通事故があったばかり、地元では、早くなんとかしてほしいとのことです。

計画によりますと、国道一五一号線から伊賀良の都市計画道路（知久町～中村線）までの間が巾員六メートルに歩道左右一メートルずつの付いた立派な道路が計画されています。すでにご存じの方も多いと思いますが、鈴岡公園上の遠見原から、伊賀良の方へ、四〇〇メートルが工事費六〇〇万円で出来ています。予算は、二、七〇〇万円位着きましたが、買収費が多いため工事の方が進んでいませんあと三年で、伊賀良分の一工区が終り、駄科分二工区が本格的に、工事に取りかかるのは四年先になるとのことです。早く出来る様地元では望んでいます。

体育委員会

早起野球大会

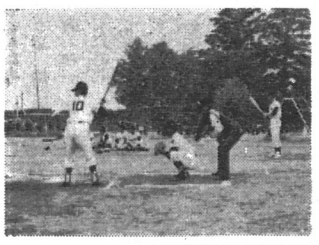
公民館体育委員会主催、任意チームによる第一回早起野球大会が七月四、六、八日の三日間小学校々庭で行なわれた。昨年はソフトボールでしたが、今年は、地区内にも野球同好会が生れたこともあって野球大会となったわけです。

試合は、コート二面を使い朝5時から7時まで毎朝二試合行なわれた。運営には体育委員会はもちろん、竜丘野球同好会と林年雄、橋爪和夫両氏が主審を担当した。参加チームと成績は次の通り、優勝　ギューチューチーム。二位城陰野球同好会（二二位はジャンケンで決定）三位　丘の子。三十六・六チーム（選手の平均年令がチームの名前）

参加者は皆、楽しかった。と話していました。またこの大会のために新チーム結成を呼びかけてはどうだろう。という声もあり来年度の課題とすべきところでしょう

竜丘体育祭

五月六日第十三回竜丘体育祭が行なわれ、バレー、ソフトボールに熱戦が展開された。試合の結果はバレーボール優勝　駄科、二位桐林。以下時又、上川路。ソフトボール優勝　駄科。二位桐林。以下上川路、長野原、時又でした。どこの分館でも人集めには苦労しているようで一層のPRと地区民の協力が要望されている



（熱戦の早起野球）

考古資料館

開善寺へ

市の考古資料館が開善寺地内に建設される。これは中央道工事によって破壊、埋没の危険のある貴重な文化財を、市と郡町村が一体となり資料館へ収蔵しようとするものである。着工は十月一日、完成は三月末日予定、敷地は建坪、三百九十五㎡、鉄筋平屋建て、資金は一般財源と地方債で二千五百万円、広域市町村事業として県から五百万円の補助である。これが完成すれば、中央道工事関係で発掘された文化財が全てここに収蔵され一般に観覧される。

又、駄科、桐林地区の農業構造改善事業の施行に伴ない、竜丘の文化遺産の発掘調査が行なわれる駄科地区は橋場鈴南、桐林地区は小池中心に発掘調査が行なわれる作業は十月末より来年三月までの予定、特に駄科の神送り塚からは何か、出るのではないかと期待されています。

あの人　この人

◎伸びよ健やかに

氏名	部落	父名
林　尚美	桐林	正博
中島　美樹	桐林	悟
武内　直子	時又	信之
山口　愛	時又	隆幸
小木曽　武	長野原	進
前沢　貴徳	時又	敬司
久保田裕美	時又	修司
松野　由幸	時又	宰夫
金子かおる	上川路	隆一
塩沢登紀夫	桐林	三郎
小幡　秀行	長野原	勝治
片桐　陽子	時又	隆男
久保田亨子	桐林	一正

永遠に幸あれ

高橋　琢磨	東京都渋谷区	
木下美恵子	駄科より	
川上　宗雄	下条村	
松永　正子	駄科より	
小林　斉	時又	
折山　栄子	桐林より	
下平　勝照	桐林	
三島富士子	豊丘村より	
高島　竹司	桐林	
荒竹　美恵	宮崎県より	
田中　憲文	上川路	
初崎　元子	飯田より	
吉川芳夫	駄科	
橋都　京子	上郷町より	
伊藤　宣二	時又	
真野為代子	愛知県より	
鈴木　英機	愛知県	
久保田悦子	駄科より	
三治　文人	鼎町	
坂井千代子	時又より	
小室　敬司	上川路	
井上　順子	木曽郡より	
暮石　憲二	愛知県	
岡島すみ子	桐林より	
鮎沢　満	豊丘村	
原　久子	桐林より	
高島　弘行	飯田上	
小林　勝江	桐林より	
中村　富夫	飯田上	
前島三恵子	時又より	
羽場　弘光	松尾	
下平　恵子	時又より	
北村　勝志	千代	
原　富美子	桐林より	
興水　宗景	南佐久	
岡島　隆子	駄科より	

◎御冥福を祈る

氏名	部落	性別	年令
今村　久子	時又	女	四七才
塩沢　実男	桐林	男	七六
下平　喜三	駄科	男	七四
沢柳かな子	駄科	女	二三
今村　義一	時又	男	七五
小林みや子	駄科	女	六二
塩沢　吉郎	長野原	男	七五
大原コマエ	上川路	女	六五、
代田　てい	駄科	女	八七

鉛筆かついで

収繭量4トン

駄科　牧島亮夫さん一家

糸値の好調で生産意欲を取戻した養蚕に　飯伊地方で只一ケ所「壮蚕用多段循環式全自動飼育装置」を取入れ、省力化、大型養蚕に取組む駄科の牧島亮夫さんを訪ねました。

昨年迄に、機械化により省力化を計り、昨年は年間二、八トンの収繭量を上げ、地区内の横綱である。本年はさらに、遊休桑園の高度利用をして年六回以上の多回育により、機械をフルに動かし、生産効率を高める目的から「多回育養蚕技術指導パイロット事業」を取入れ、壮蚕用自動飼育装置二セット三十箱用、大型蚕舎施設等の設備に千百五十万円（内助成金五割）を投じ、収繭量四トンをめざし張切っている　それ故　農家と云うより繭生産工場を見ている感じである。

今迄の実績は広く見とめられ、昨年四月には、高松の宮様から、蚕糸業健全発展で表彰され、この五月には、信毎主催の「これからの農業経営研究発表大会」に飯伊代表として参加「主業養蚕経営の拡大をめざして」を発表、みごと優良賞を授賞された。

これらの成果は、牧島さん一家のチームワークがよいからだ、と云われる、亮夫さんの父里さんは現在病気療養中でおめにかかれませんでしたが、経営面では養豚山羊を担当。毎日種豚の運動で歩くことは有名です。自転者に乗り豚に与えるオカラをつけて、いつも変らぬ歯切の良い挨拶は好評ですその上御孫さん四人も育てたとかが農業のことになるとその目はかがやき、馬力ある体も躍動しているようだ。今後のご発展と、里さんのご快癒を祈りつつ筆をおく。

里さんの奥さんは、養鶏係亮夫さんの奥さんは、養蚕のひまな時に施設園芸を取入活躍中、と云うお互いに助け合いながら働いています。

今年の春蚕は、設備の効果が有り、今迄二時間かかった給桑もわずか四十分ですみ「ゆとりが出来た」と喜んでいた。しかし、里さんの入院にも負けず頑張り抜いたことは、亮夫さんの根性と一家のチームワークが有ったからであろう。

亮夫さんは今後の経営について我家の収繭量も上げなければならないけど、この機械を使い小規模農家では手数のかかる。三、四令飼育をして、養蚕業の復活を計り地区全体の収繭量を伸ばしたい。さらに食糧危機が予想されている現在、農業従事者の兼業化、老令化がすすんでいることに不安をもち、農業軽視の政策を改めなければ、と提案される。最後に農業者として、楽しい家庭を築き、他産業、世界農業に立ち打ち出来る自立農業をめざしていく……、と話した。

編集後記

つゆが明けたのか中休みで又大雨が降るのかわかりませんが、暑い毎日です。多くの方に読まれ親しまれる館報にと中日新聞記者の所へ研修に行き学んだ事を基に皆で編集して見ましたが、仲々思うにまかせず編集のむずかしさを感じました。皆様の御意見、御批判をお寄せ願い、より充実したいと思っています。

おくやみ

「鉛筆かついで」編集中に、牧島里さんがおしくなりになりました謹しんで御冥福をお祈り申しあげます。